

2.定住・結婚・子育てに対する市民意識

(1) 市民アンケート調査結果

①調査概要

(調査目的)

五島市が市政運営に関する市民の意見や満足度を調査し、総合戦略づくりの参考資料にするため実施するもの。

(実施時期)

平成 26 年 11 月 25 日（火）～12 月 12 日（金）

(調査対象)

五島市内在住の満 19 歳以上の男女 3,500 人

(調査方法)

無作為抽出法

(回収状況)

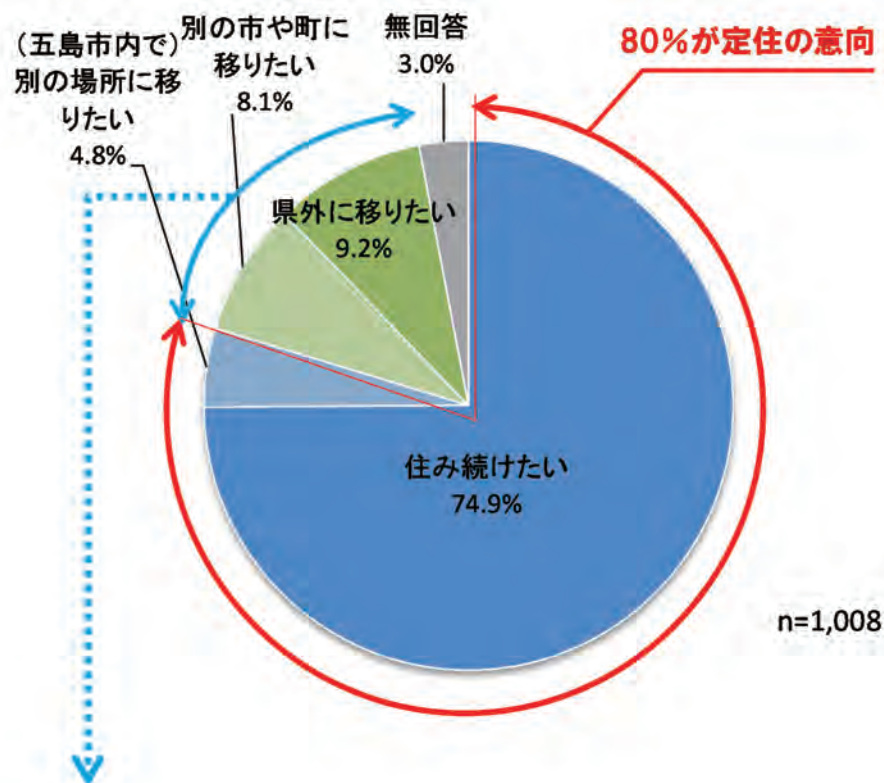
人口の少ない地域においても、人口比にかかわらず一定数の調査票を配布することで、地域ごとの傾向を把握するために必要な有効回答数を確保しようとした。ただし、市全体や他の属性別の分析をする際には、分析結果に人口の少ない地域の意見が過度に影響をおよぼさないよう、その影響に配慮して集計を行った(ウエイトバック集計)。従って、居住地域別の分析においては、有効回答数は 1,023 件となるが、それ以外の分析においては、有効回答数は 1,008 件(ウエイトバック後)となる。

	地区別人口 (A)	人口比 (B)	無作為人数 (C) =3,500名× (B)	サンプル数 (送付数)	有効回答数	回収率	ウエイト値	ウエイトバック後 のサンプル 数
福江地区	23,799	59.9%	2,096	1,947	563	28.9%	1.072	604
久賀島	361	0.9%	32	100	29	29.0%	0.316	9
杢島	150	0.4%	13	100	33	33.0%	0.115	4
富江地区	4,945	12.4%	436	406	101	24.9%	1.242	125
玉之浦地区	1,479	3.7%	130	121	44	36.4%	0.853	38
三井楽地区	2,756	6.9%	243	227	79	34.8%	0.885	70
嵯峨島	169	0.4%	15	100	19	19.0%	0.226	4
岐宿地区	3,535	8.9%	311	291	88	30.2%	1.019	90
奈留地区	2,544	6.4%	224	208	52	25.0%	1.241	65
無回答		-	-	-	15	-	-	-
合計	39,738	100.0%	3,500	3,500	1,023	29.2%		1,008

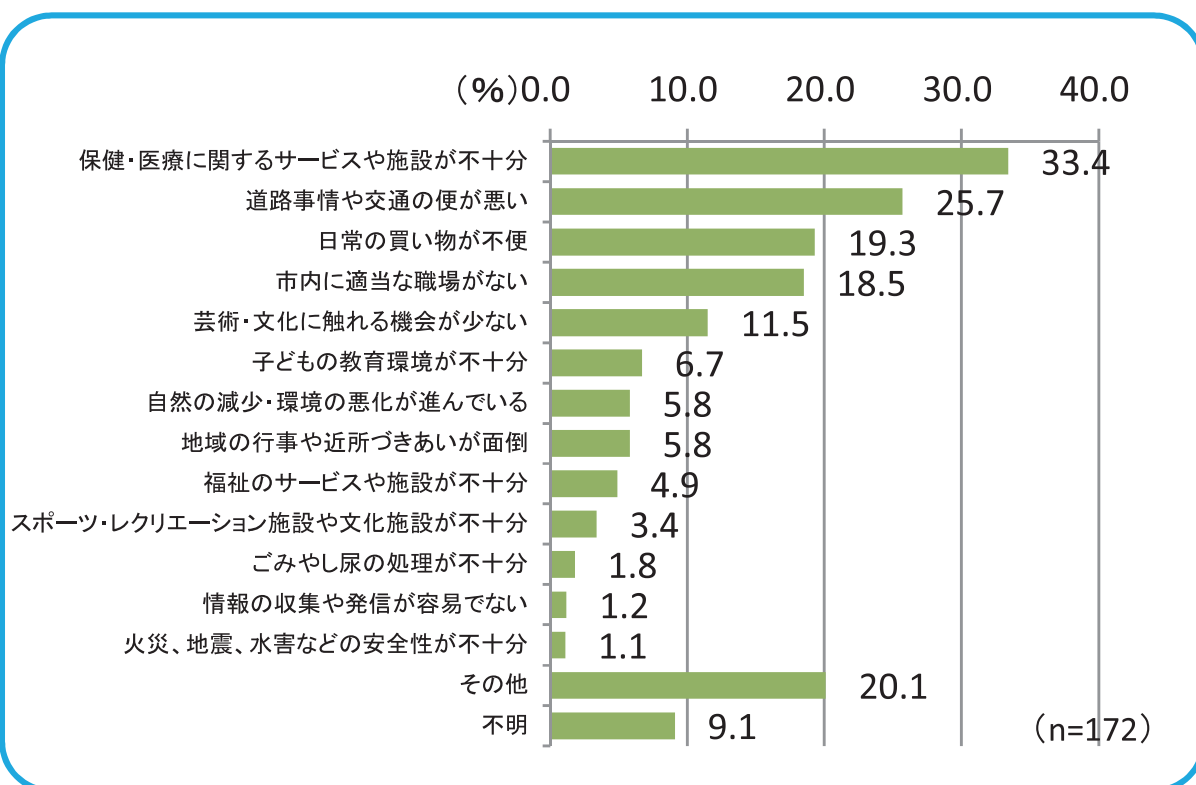
②市民の定住意向

80%が五島市に住み続けたい意向があり、住み続けたくない理由として、保健・医療に関するサービスや施設が不十分であること、道路事情や交通の便の悪さなどがあげられました。

【図表 21 市民の定住意向】



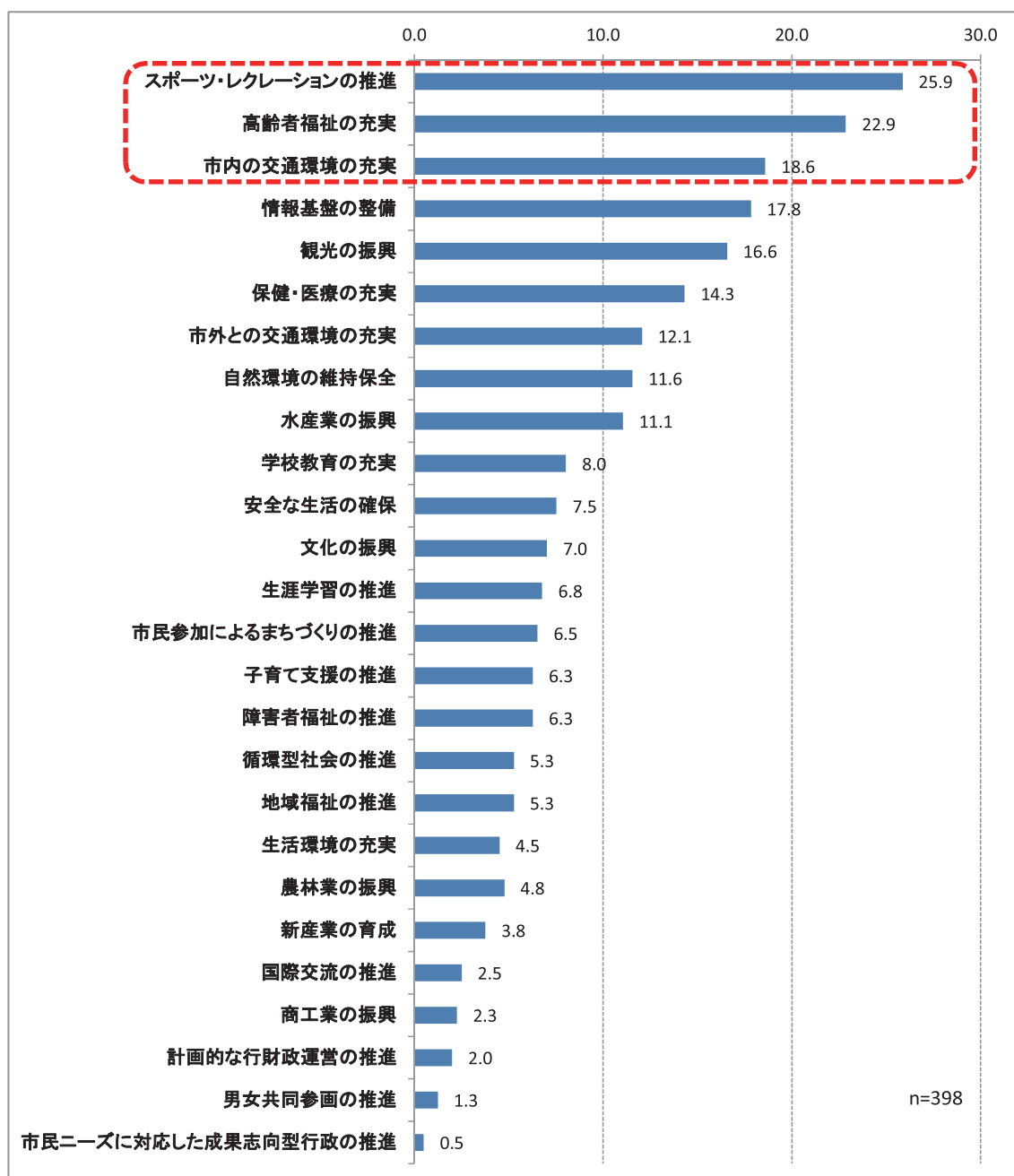
【住み続けたくない理由】



③まちづくり施策の進捗度

五島市のまちづくり施策の進捗度は、スポーツ・レクリエーションの推進、高齢者福祉の充実、市内の交通環境の充実が上位を占めています。その理由として、企業等のスポーツ合宿の誘致の増加、トライアスロン大会の盛り上がり、デイサービス等高齢者サービスの充実、船とバスとの連携などがあげられます。

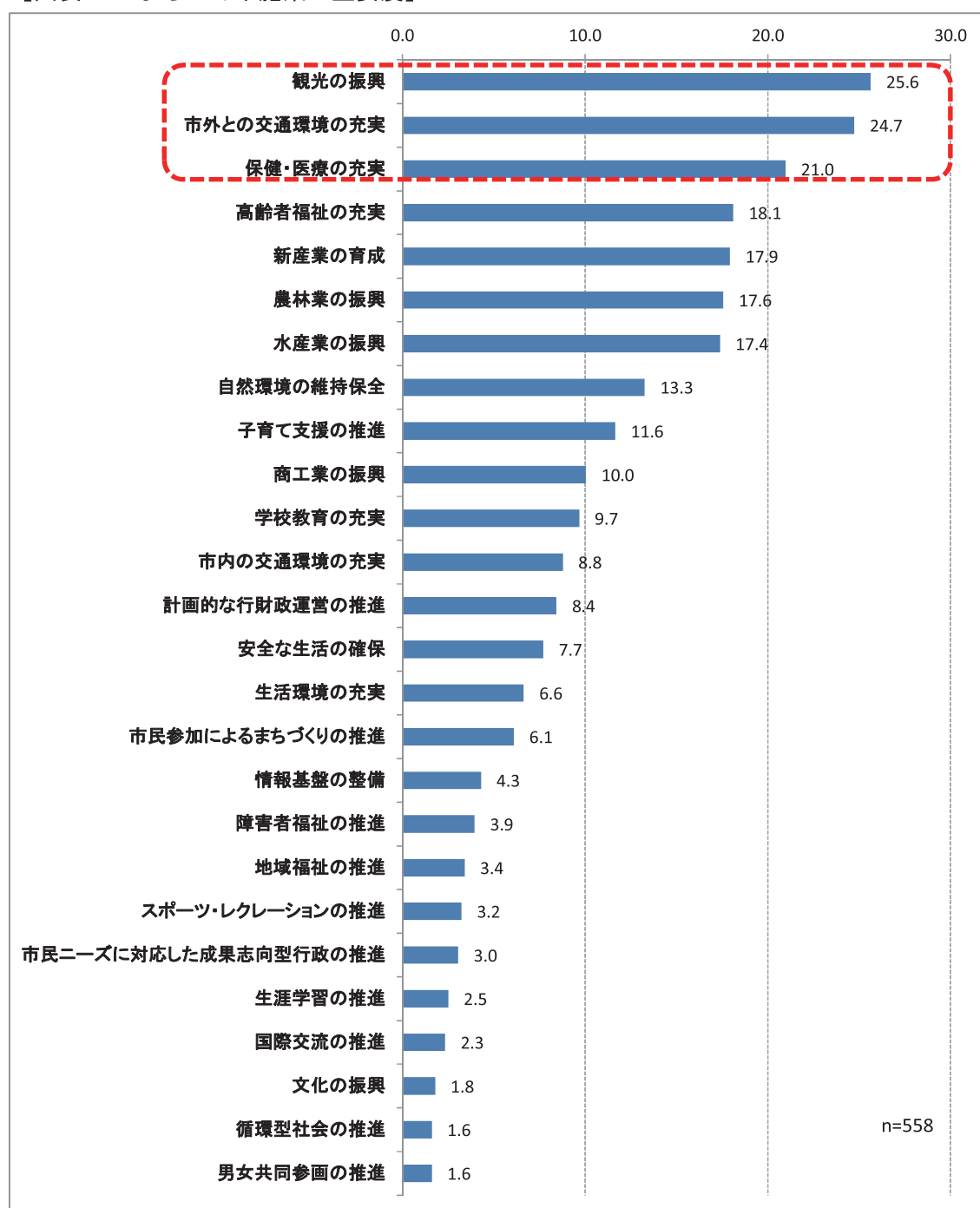
【図表 22 まちづくり施策の進捗度】



④まちづくり施策の重要度

五島市のまちづくり施策の重要度は、観光の振興、市外との交通環境の充実、保健・医療の充実が上位を占めています。その理由として、世界遺産登録に向けた準備、宿泊施設の不足、観光客や帰省客の旅費の負担、長崎市まで行かなくてすむような医療の充実などがあげられます。

【図表 23 まちづくり施策の重要度】



⑤調査結果からみた現状と課題

（現在の五島市について）

現状の五島市を評価する総合的な指標として“住みやすさ”が挙げられますが、今回の調査では72%の市民が「住みやすい」と回答し、H22年6月に実施した調査（五島市総合計画（後期基本計画）策定にかかる市民アンケート調査）と比較して14ポイントの増加がみられるなど、全体として満足度が高まっていることが窺えます。こうした高評価の背景となる施策満足度をみると、五島市が積極的に推進している自然エネルギーの島内循環のしくみ作りや、災害の被害が少なく安全性が高いこと、トライアスロン・マラソンなどの成果であるスポーツ振興の満足度が非常に高くなっています。特に学校教育は前回の調査に比べ満足度が最も高まった施策になります。一方、満足度が低い施策は新産業育成、商工業振興、観光などであり改善が求められています。

（今後の五島市について）

今後の重点課題は大きく「産業の振興・雇用の確保を図る施策」と「住みやすい地域づくりのための施策」に区分されます。前者は世界遺産登録に関連した観光の振興や海洋プロジェクトと関連した新産業の振興、市外との交通環境の充実、農林水産業の活性化が挙げられます。また、後者の施策は保健・医療サービスの充実、高齢者福祉の充実、U I ターン者および若い世代への子育て支援の充実などが挙げられます。

※アンケート調査結果については、P. 28～41に掲載しています。

〔現在の五島市〕

《五島市の生活充実度》

（高評価）

- ・教育環境
- ・子育て環境

（低評価）

- ・公共交通
- ・文化施設
- ・医療サービス

《五島市のまちのイメージ》

- ・犯罪、災害が少なく安全なまち
- ・歴史、文化等を大事にするまち
- ・海洋資源が豊富なまち
- ・自然環境や景観を守るまち

※災害安全性、歴史・文化振興が浮上。海洋資源は新たなイメージ定着へ

（現在の五島市の総合的な評価）

《住みやすさ評価》
72%が
住みやすい

《定住意向》
80%が
今後も
住みたい

（まちづくり施策の評価）

満足度

ベスト3

- ・循環型社会
- ・スポーツ振興
- ・安全な生活

ワースト3

- ・新産業育成
- ・商工業振興
- ・観光

進捗度

ベスト3

- ・スポーツ振興
- ・高齢者福祉
- ・市内交通環境

ワースト3

- ・成果指向型行政
- ・男女共同参画
- ・行財政運営

〔これからの五島市のまちづくり〕

《将来のまちのイメージ》

- ・多くの観光客が訪れる観光のまち
- ・農林水産業を振興する活力にあふれたまち
- ・自然環境や景観を大切にするまち
- ・五島らしい特産品があるまち

《今後のまちづくりの方向性》

産業の振興・雇用の確保を図る施策

- ・観光の振興
- ・新産業の育成（海洋プロジェクト関連）
- ・市外との交通環境の充実
- ・農林水産業の振興

住みやすい地域づくりのための施策

- ・保健・医療サービス
- ・高齢者福祉の充実（きめ細かい地域福祉）

重点
課題

（まちづくりの考え方）（関連プロジェクト）

- ・産業振興
- ・海洋プロジェクト
- ・交流人口拡大
- ・世界遺産登録
- ・子育て支援

各種の都市インフラや生活基盤となる
ハード・ソフトの各種施策

持続可能な財政運営

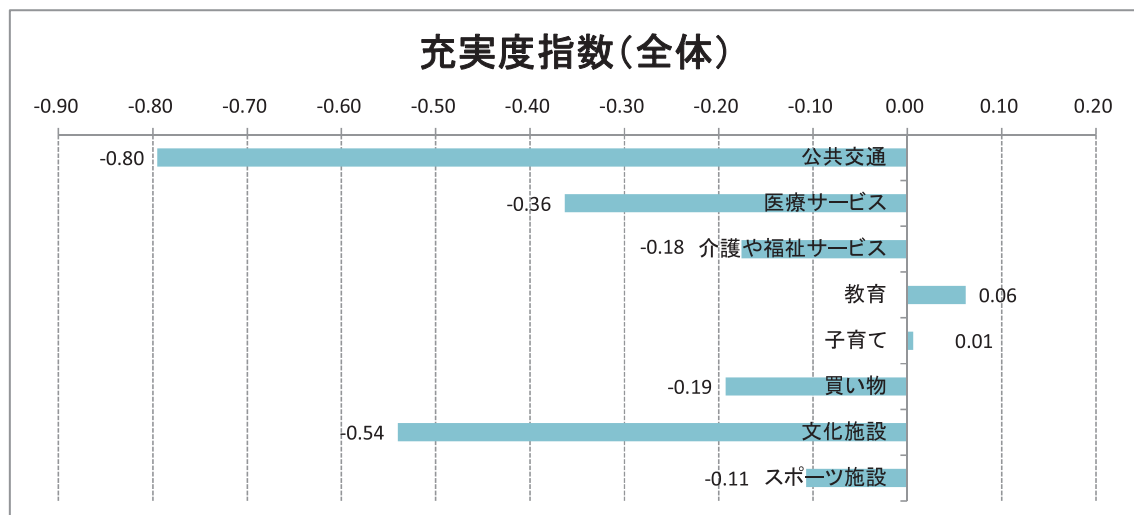
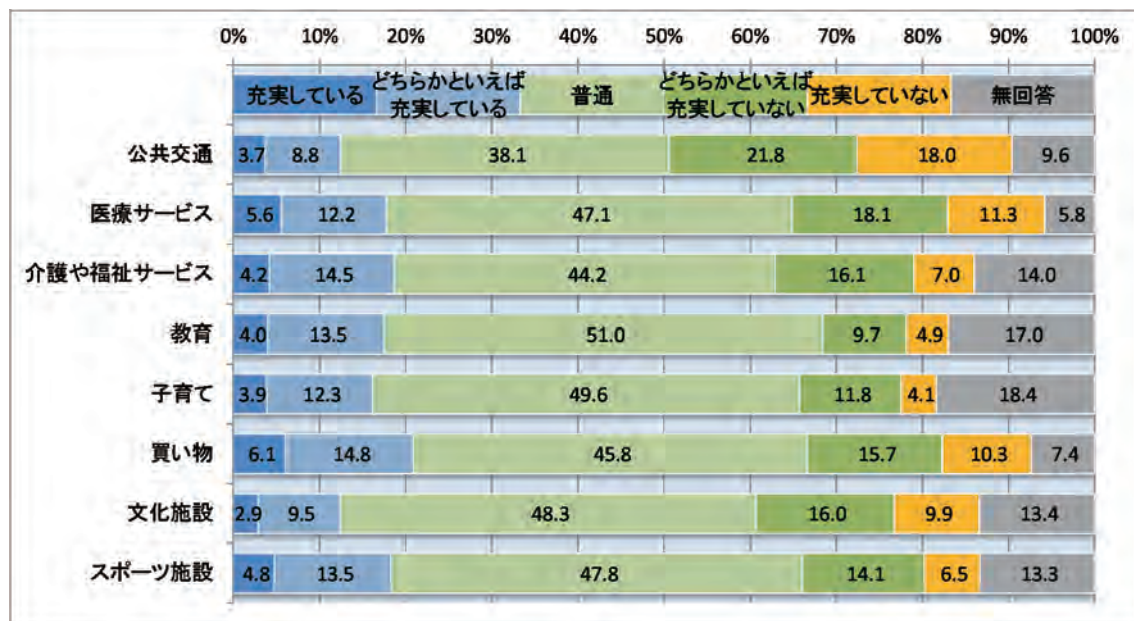
【アンケート調査結果】

(1)五島市の現在の充実度

充実度は「教育」がトップ。「公共交通」、「文化施設」は低評価

全体傾向	「充実している」と「どちらかといえば充実している」の合計は「買い物」が 20.9%で最も高く、「介護や福祉サービス」、「スポーツ施設」が続き、「文化施設」が最も低い。一方、「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」の合計は「公共交通」が 39.8%で最も高い。
------	--

(全体傾向) N=1,008



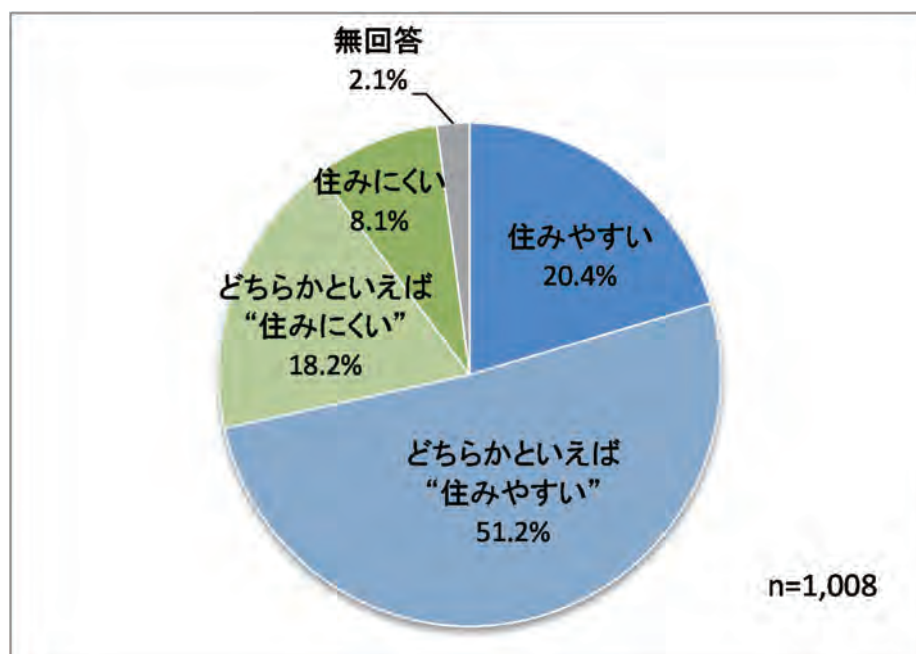
充実度指数 = (「充実している」×2 + 「どちらかといえば充実している」×1 + 「どちらかといえば充実していない」×(-1) + 「充実していない」×(-2)) / 回答数

(2)現在の生活環境を総合的にみて、今の五島市は“住みやすいところ”だと思いますか。

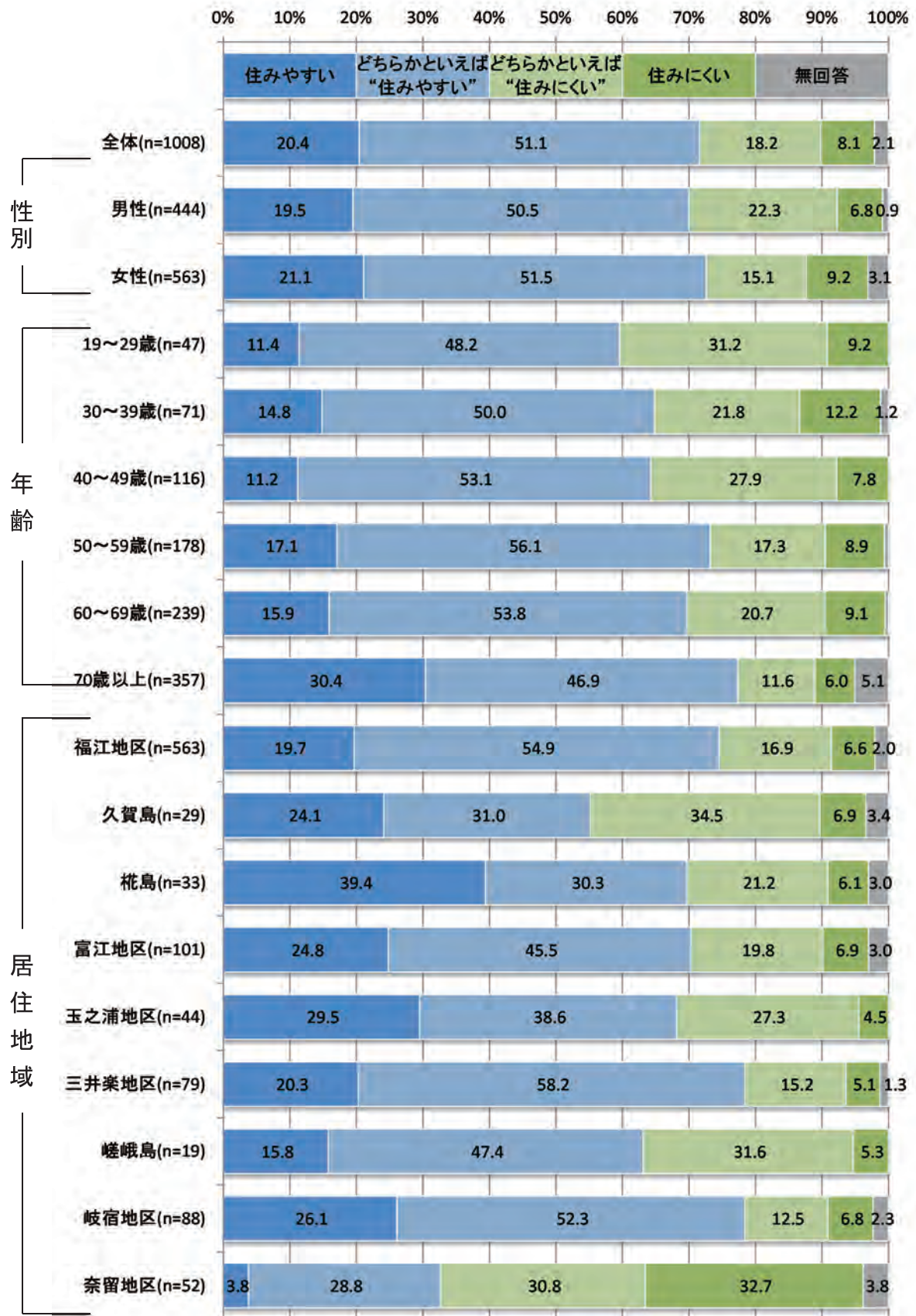
“住みやすい”は 72%。各年代、奈留地区以外の地域で高評価

全体傾向		「住みやすい(どちらかといえば住みやすい)」割合が「住みにくい(どちらかといえば住みにくい)」割合を 45.3%上回っている。
クロス集計	男女別	性別での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	年代が高くなるにつれて「住みやすい(どちらかといえば住みやすい)」割合が高くなる。
	地域別	奈留地区以外の全ての地域で「住みやすい(どちらかといえば住みやすい)」割合が高い。

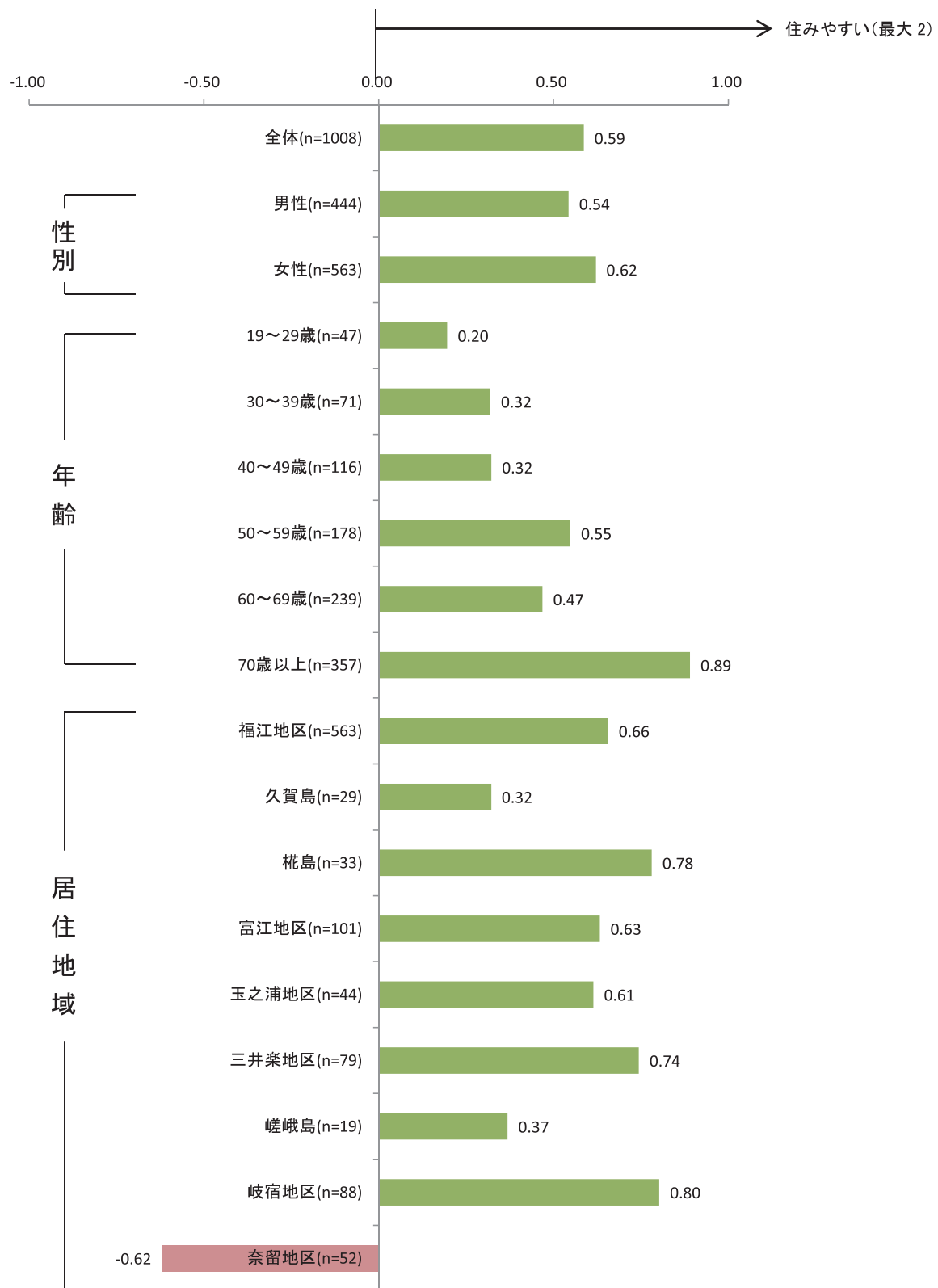
(全体傾向)



(基本属性クロス)



(住みやすさ指数)



《住みやすさ指数》

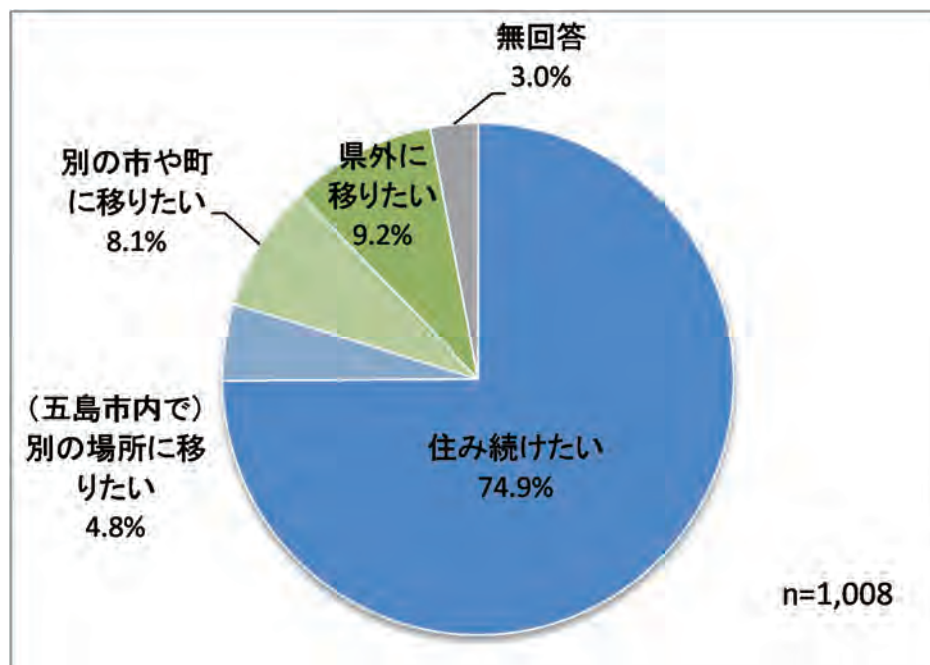
= (「住みやすい」×2 + 「どちらかといえば住みやすい」×1 + 「どちらかといえば住みやすくない」×(-1) + 「住みにくい」×(-2)) / 回答数

(3)これからも五島市に住みたいと思いますか。

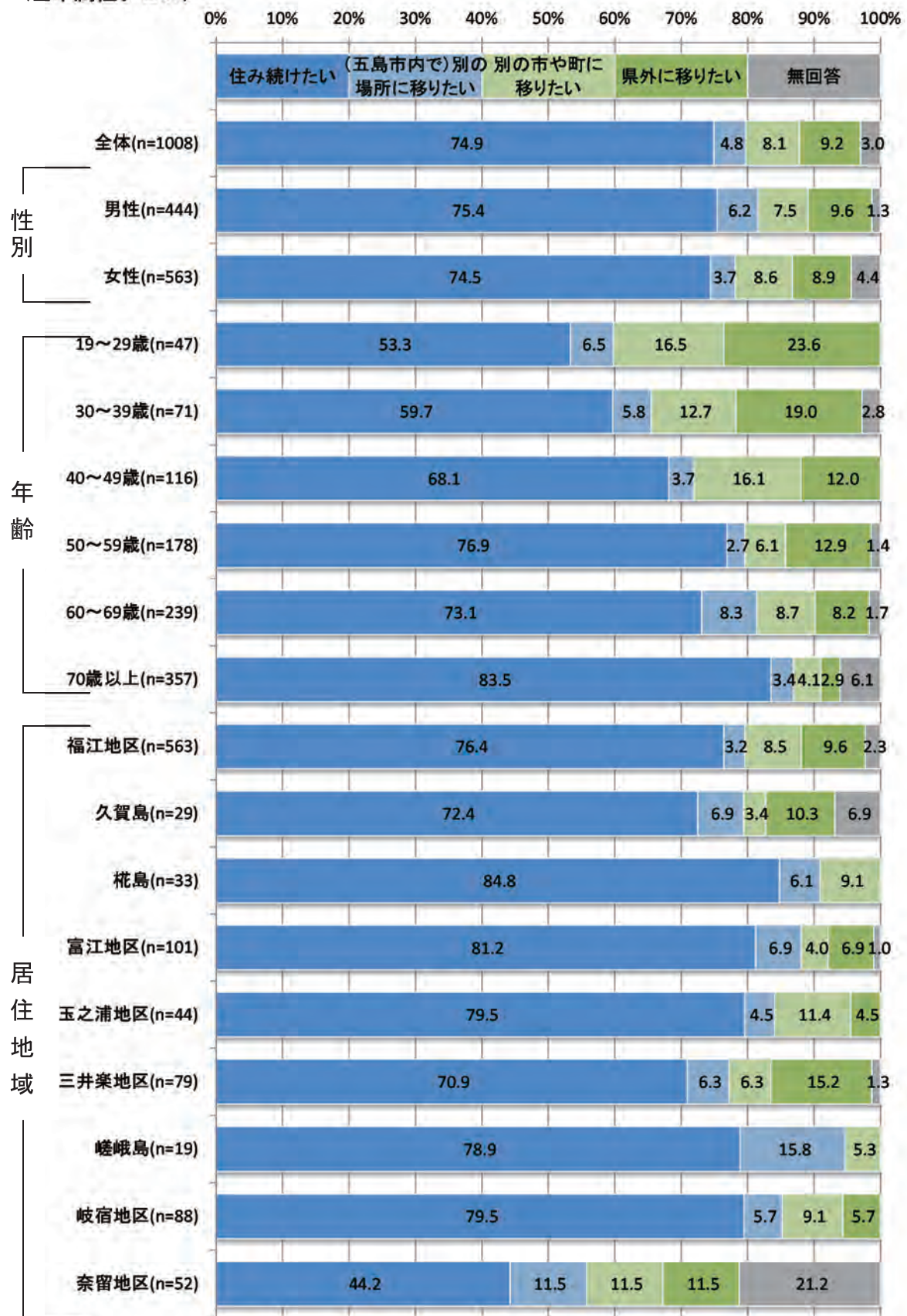
定住意向 80%。奈留地区は極端に定住意向が低い

全体傾向		「住みたい」「(五島市内で)別の場所に移りたい」割合は 79.7%と高い定住意向が見られる。
クロス集計	男女別	性別での大きな傾向の違いは見られない。
	年齢別	全ての年代で「住みたい」割合が高く、年代が高くなるにつれて定住意向が高い。
	地域別	奈留地区以外は定住意向が 7 割を超えており、枕島、嵯峨島は 9 割を超えている。

(全体傾向)



(基本属性クロス)

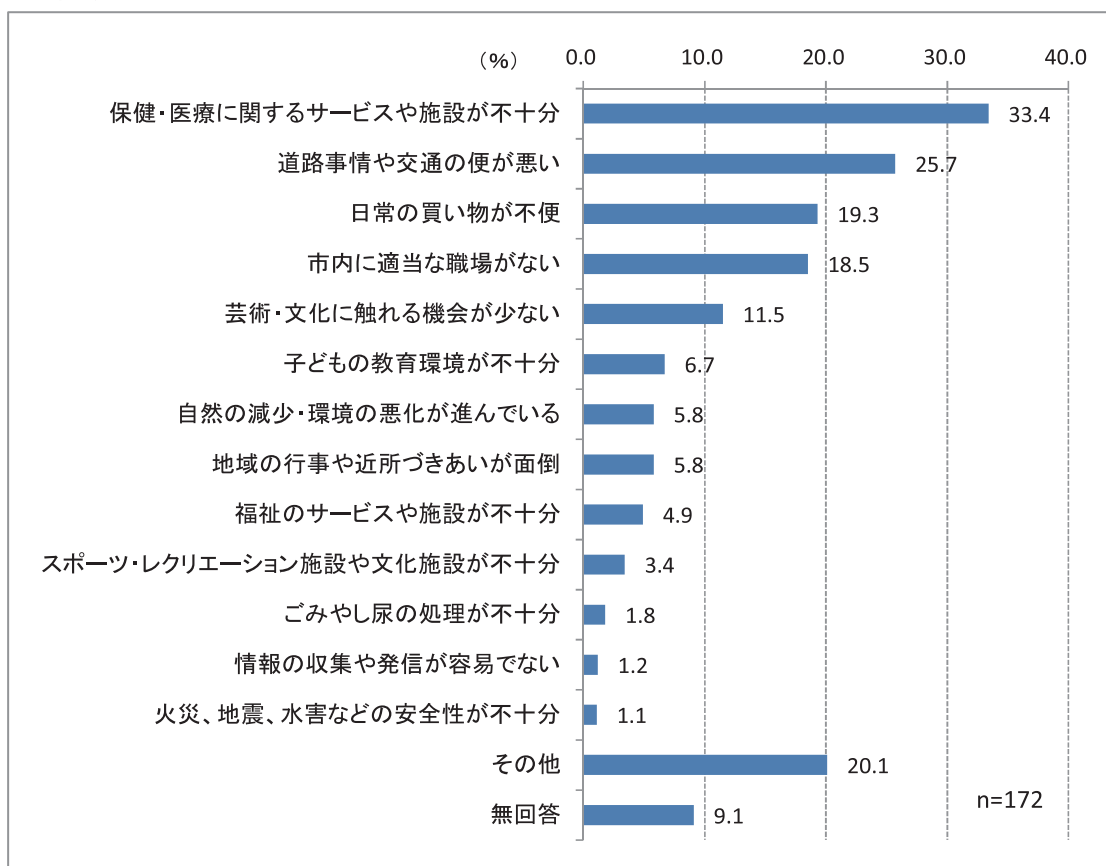


(4)あなたが五島市に住みたくないと思う理由はなんですか。

交通事情や買い物の利便性、ごみ分別などを問題視

全体傾向	住みたくない理由は、「保険・医療に関するサービスや施設が不十分」が最も高く、次いで「道路事情や交通の便が悪い」、「日常の買い物が不便」が続いており、医療サービス、道路・交通、買い物がマイナス要因となっている。
------	--

(全体傾向)



(5)五島市についてどのようなイメージをお持ちですか。

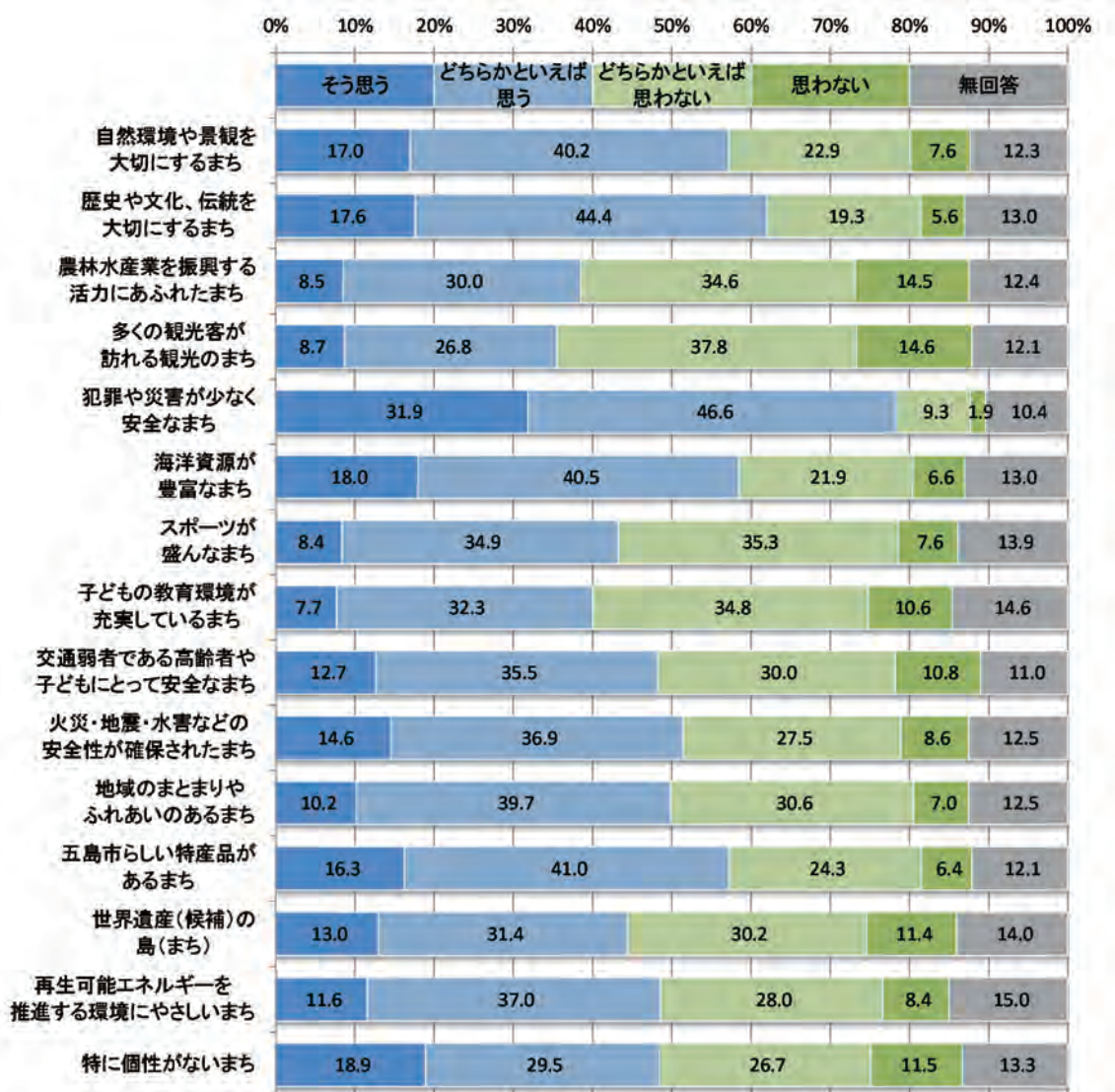
五島市のイメージは「犯罪や災害が少なく安全なまち」
「多くの観光客が訪れる観光のまち」のイメージは希薄

全体傾向

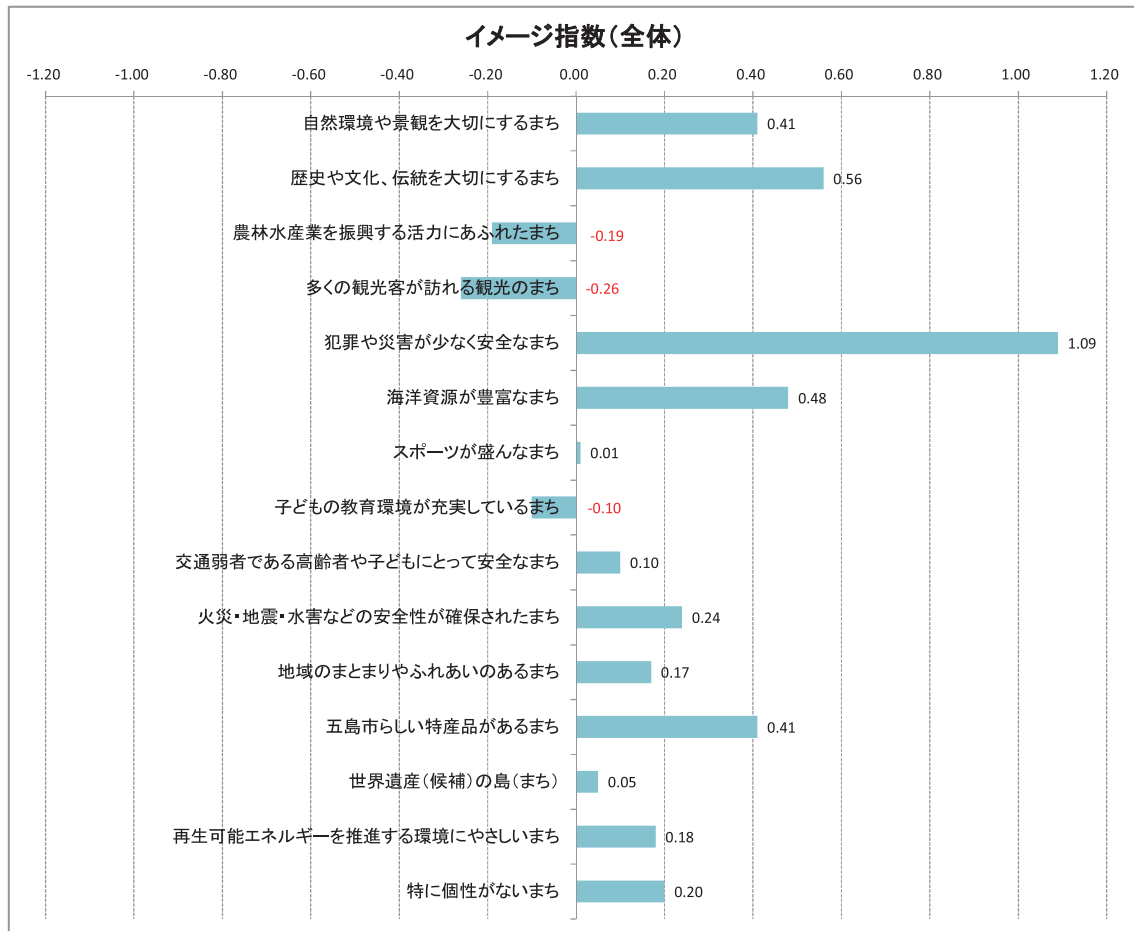
「犯罪や災害が少なく安全なまち」、「歴史や文化、伝統を大切にするまち」について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」割合が6割を超えており、五島市のイメージとして定着している状況が窺える。

一方、「多くの観光客が訪れる観光のまち」「農林水産業を振興する活力にあふれたまち」「子どもの教育環境が充実しているまち」というイメージは薄い。

(全体傾向) N=1,008



(イメージ指数)



《定住指数》

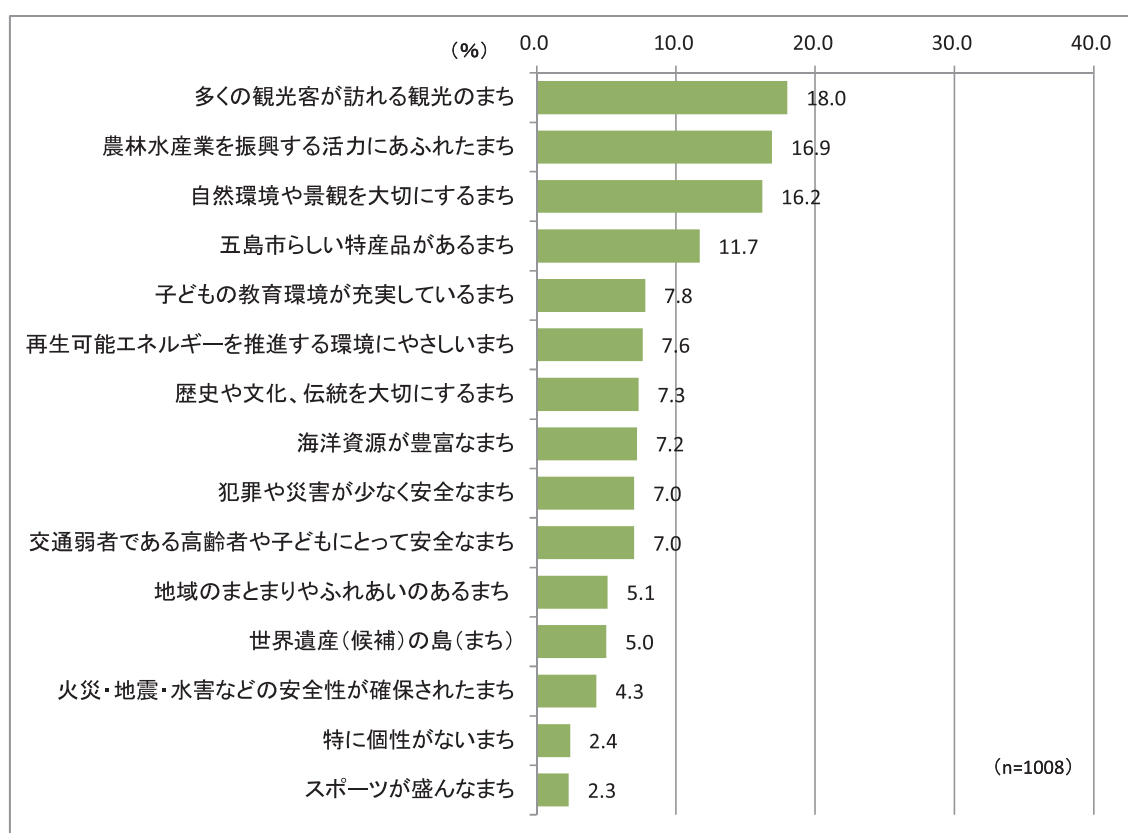
＝(「そう思う」×2+「どちらかといえば思う」×1+「どちらかといえば思わない」×(-1)+「思わない」×(-2))/回答数

(6)将来の五島市の個性として更に伸ばしていきたいイメージ

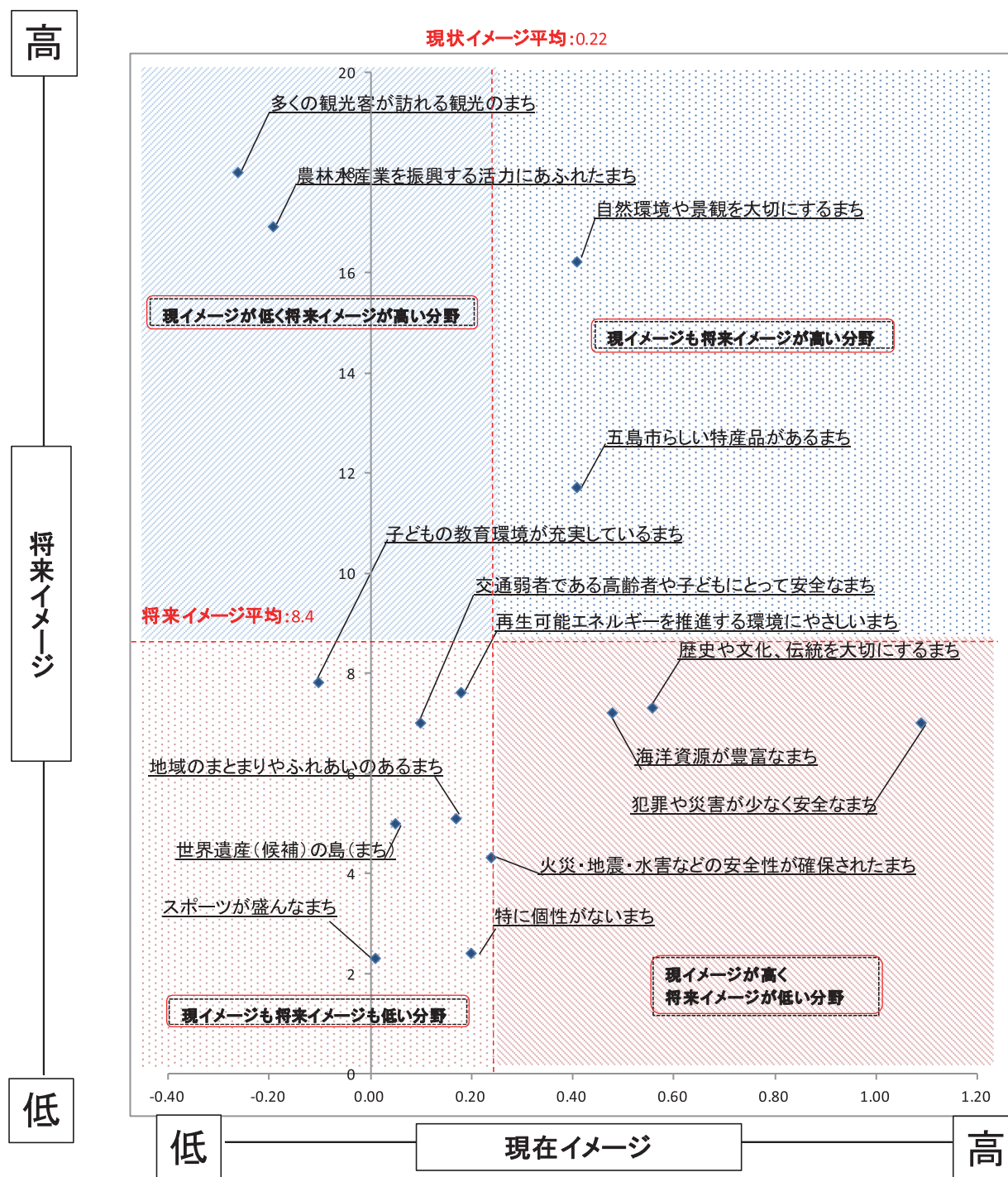
現イメージが薄い「多くの観光客が訪れる観光のまち」、
「農林水産業を振興する活力にあふれたまち」をまちの個性に。

全体傾向	五島市の将来として伸ばしていきたいイメージは、「多くの観光客が訪れる観光のまち」、「農林水産業を振興する活力にあふれたまち」といった現イメージが薄いものが高い。世界遺産（候補）の島（まち）を個性としたい意向は薄い。
------	---

（全体傾向）



(現イメージと伸ばしたい将来イメージ)



《将来イメージ指数》

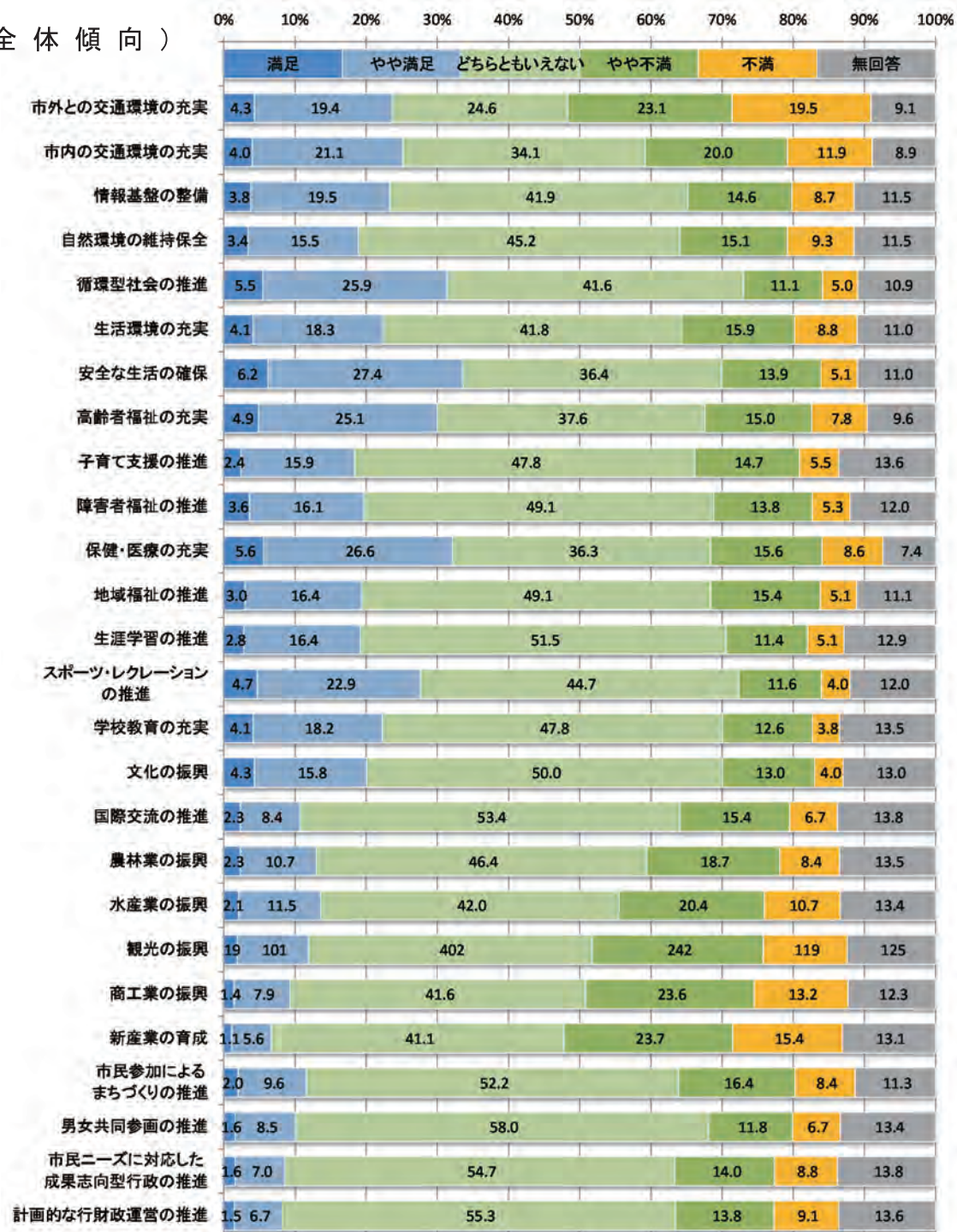
= (「そう思う」×2+「どちらかといえば思う」×1+「どちらかといえば思わない」×(-1)+「思わない」×(-2))/回答数

(7)五島市のまちづくり施策への満足度

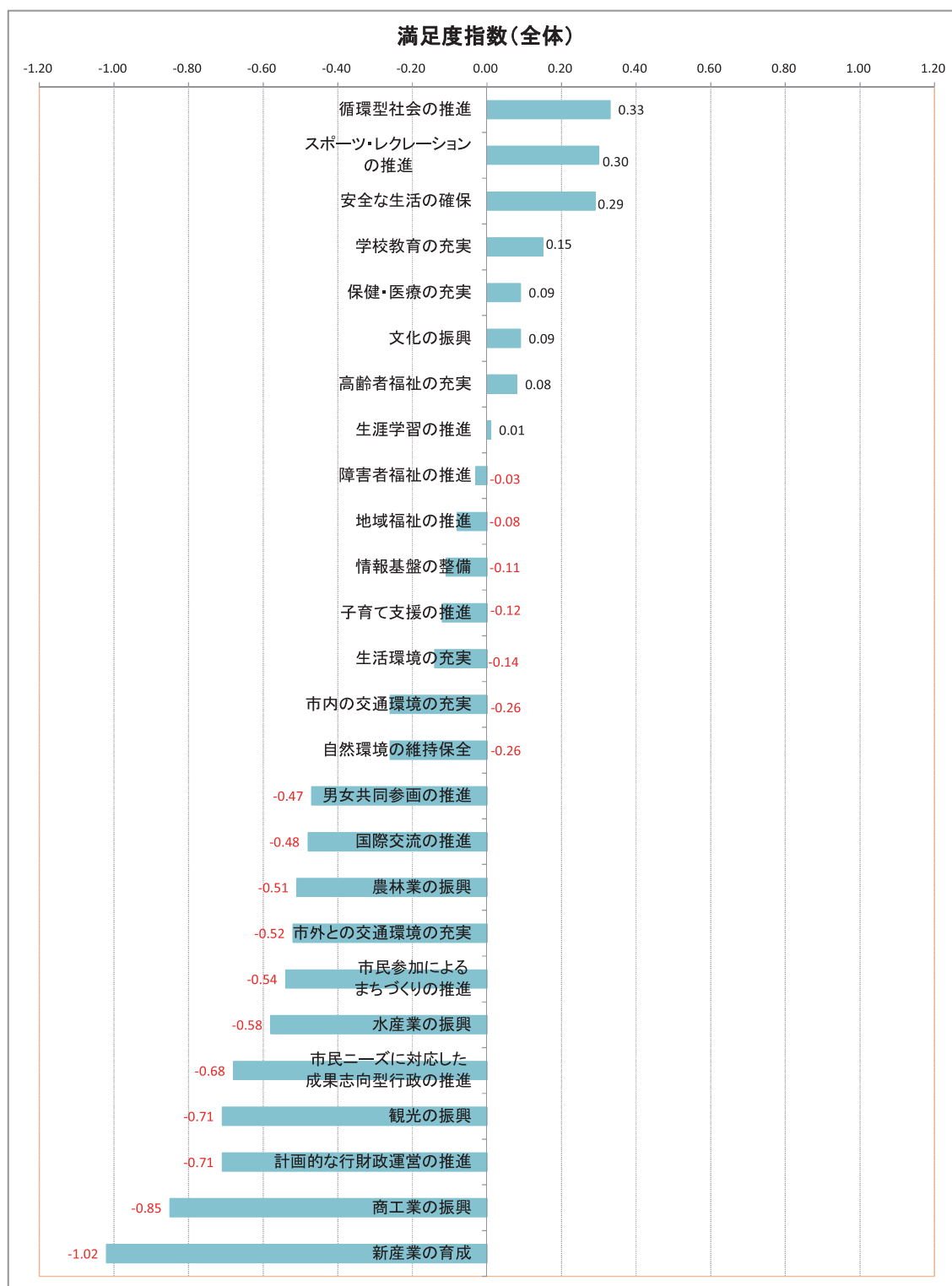
「安全な生活の確保」、「保健・医療の充実」は満足（やや満足）度が高く、「市外との交通環境の充実」、「新産業の育成」で不満（やや不満）が高い。

満足度指数をみると、「循環型社会の推進」「スポーツ・レクリエーションの推進」の評価が高く、「新産業の育成」「商工業の振興」「観光の振興」の評価が低い。

（全体傾向）



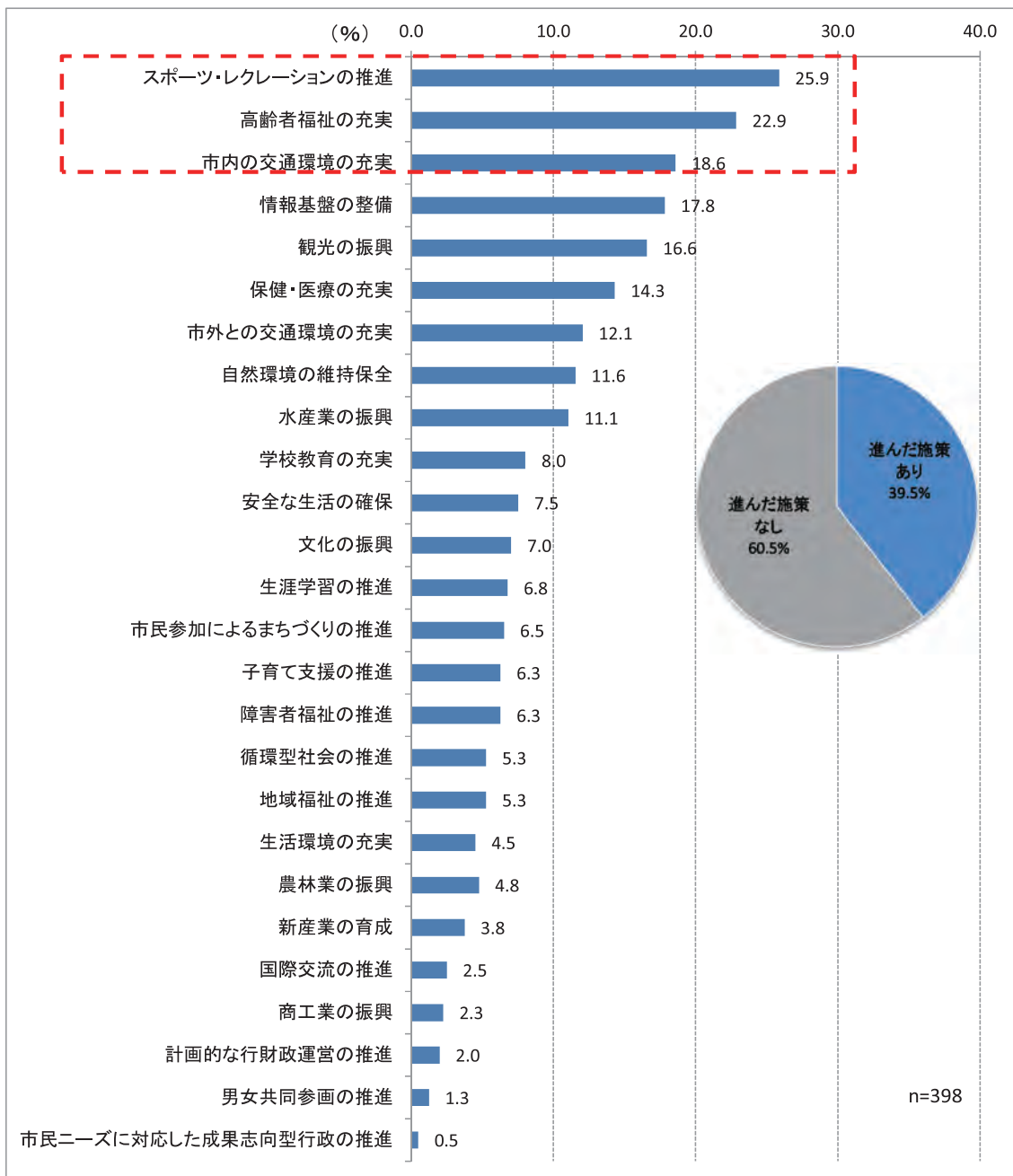
(満足度指数)



《満足度指数》＝(「満足」×2+「やや満足」×1+「どちらともいえない」×0+「やや不満」×(-1)+「不満」×(-2))/回答数
 ※前回調査と同様の算定方式とした

(8)この5年で“進んだ”と思うもの

この5年で進んだ施策として、「スポーツ・レクリエーションの推進」「高齢者福祉の充実」「市内の交通環境の充実」がみられ、がんばらんば国体の成功やデイサービスなど高齢者施設の拡充、市内の道路整備が評価されている。



(2) 結婚・妊娠・出産・子育ての意識調査結果

①調査概要

(調査目的)

「まち・ひと・しごと創生法」で示された「地方人口ビジョン」「地方版総合戦略」について、平成 27 年度中にかけて五島市においてそれぞれ策定予定であり、その基礎資料とするため。

(実施時期)

平成 27 年 1 月上旬から平成 27 年 2 月中旬まで

(調査対象)

五島市内に居住する 20 歳以上 49 歳以下の男女 1,200 人（男 600 人、女 600 人）

(調査方法)

(ア)回答方法…回答者自ら調査票へ記入する自計申告方式

(イ)調査票の配布…郵送

(ウ)抽出方法…住民基本台帳による層化無作為抽出

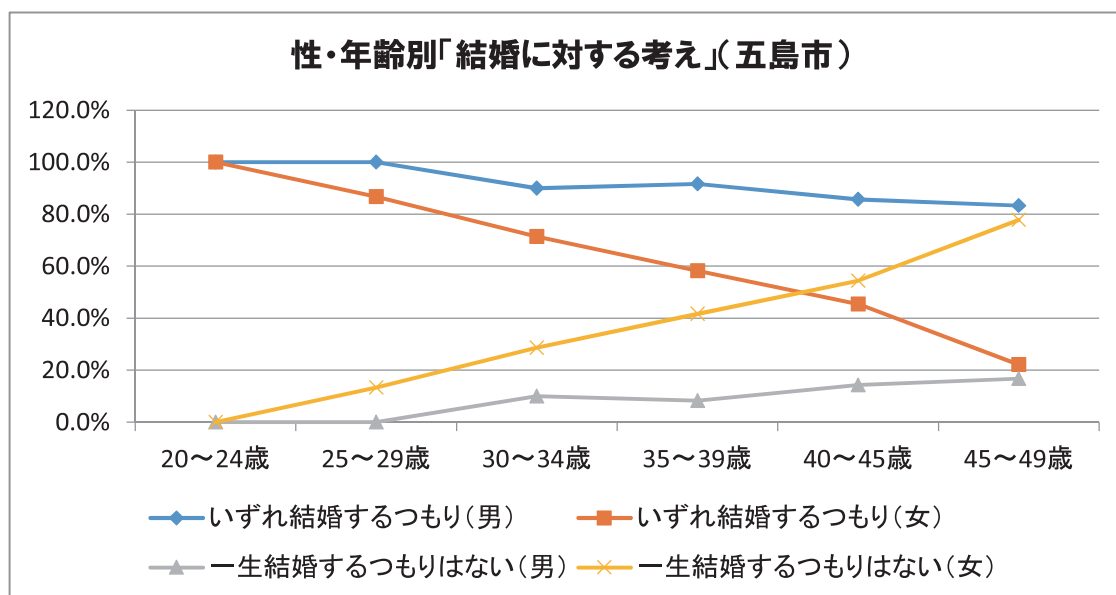
(回収状況)

377 人（男 131 人、女 246 人）の有効回答が得られた。

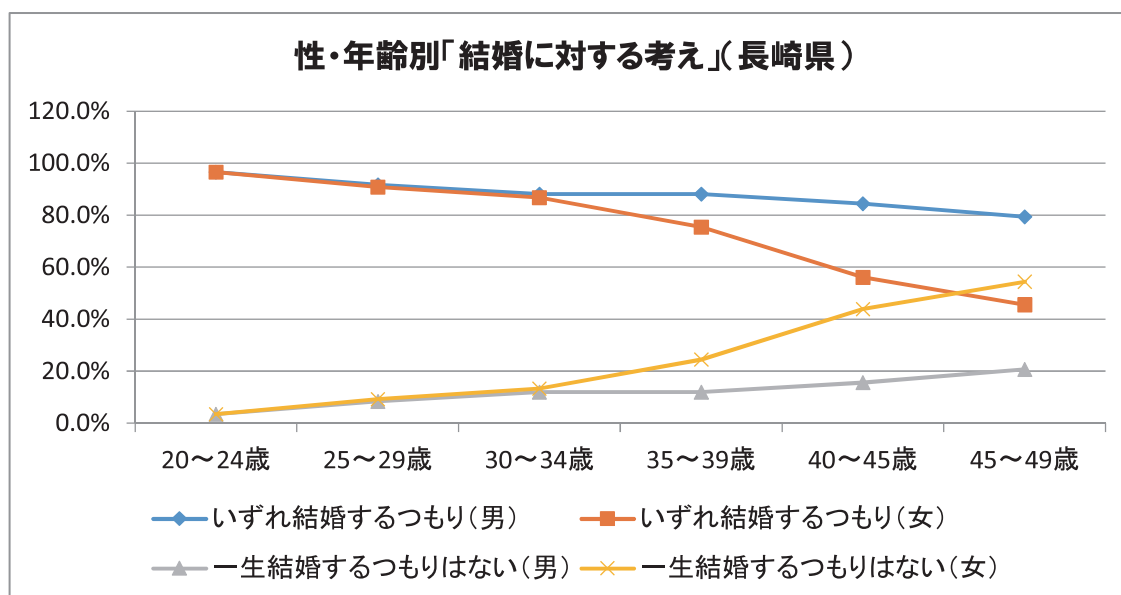
②結婚について

結婚への意欲は若い世代ほど高く、年齢を重ねるごとに徐々に低下していく傾向にあります。この傾向は男性よりも女性の方に強く現れており、特に五島市においては、県全体と比較し、その傾向が顕著です。

【図表 24 性・年齢別「結婚に対する考え」(五島市)】



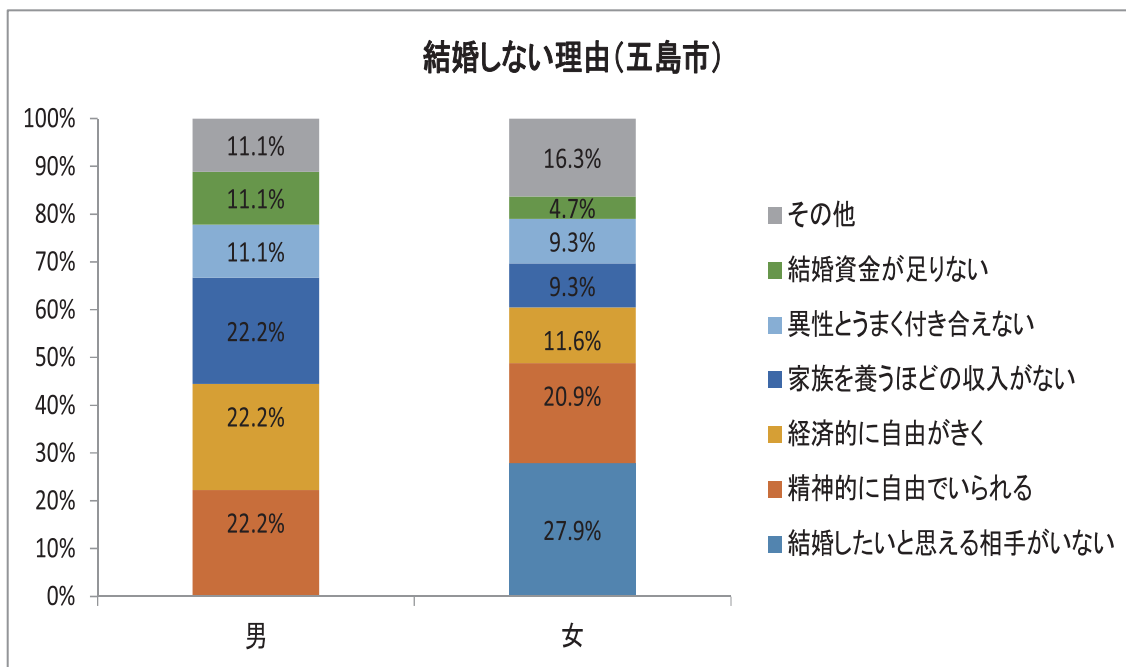
【図表 25 性・年齢別「結婚に対する考え」(長崎県)】



（結婚しない理由）

結婚しない理由は、男性は「家族を養うほどの収入がない」、「経済的に自由がきく」、「精神的に自由でいられる」が高く、女性は「結婚したいと思える相手がいない」が最も高くなっています。

【図表 26 結婚しない理由（五島市）】



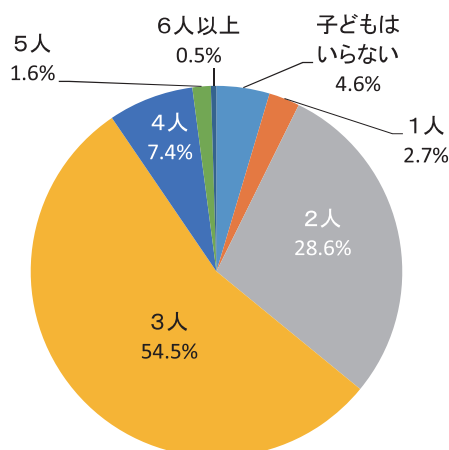
③妊娠・出産について

「理想の子どもの数」については、「3 人」が 54.5%で最も多く、次いで「2 人」の 28.6%となっています。

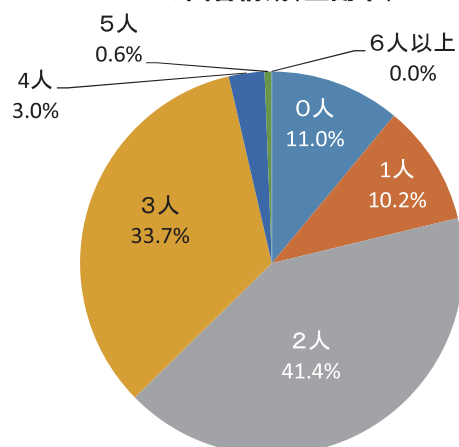
「実際に持つことを考えている子どもの数」は、「2 人」が 41.4%で最も多く、次いで「3 人」の 33.7%となっています。

【図表 27 理想の子供の数（五島市）】【図表 28 実際に持つことを考えている子供の数】

「理想の子どもの数」の回答構成(五島市)



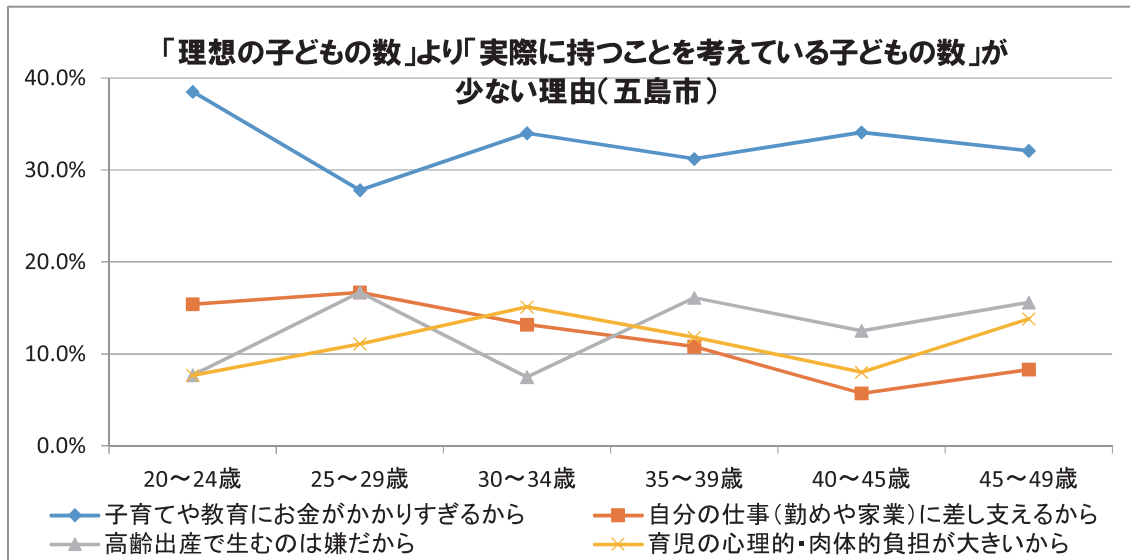
「実際に持つことを考えている子どもの数」の回答構成(五島市)



（子どもの数の理想と実際の差）

「理想の子どもの数」より「実際に持つことを考えている子どもの数」を少なく答えた理由は、各年代とも「子育てや教育にお金がかかる」が最も多くなっています。

【図表 29 「理想の子どもの数」より「実際に持つことを考えている子どもの数」を少なく答えた理由】

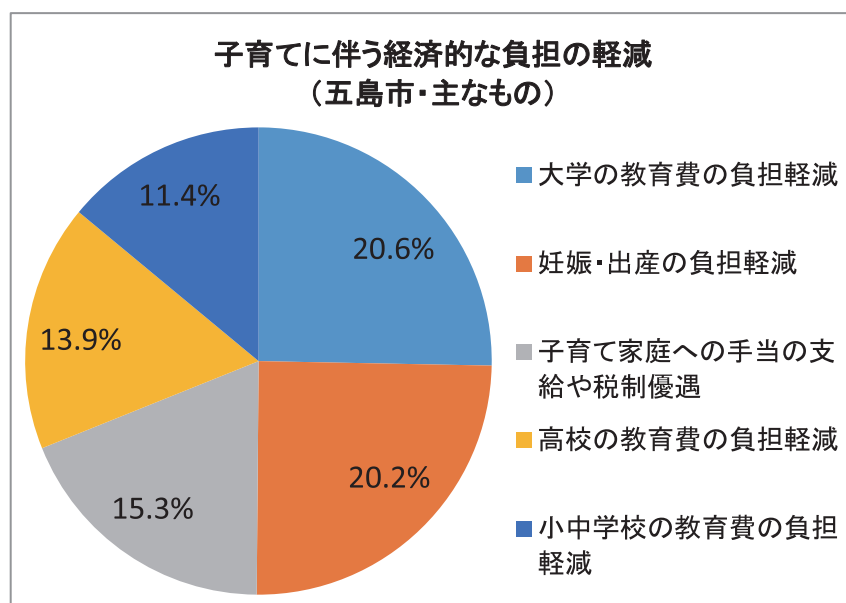


④子育てについて

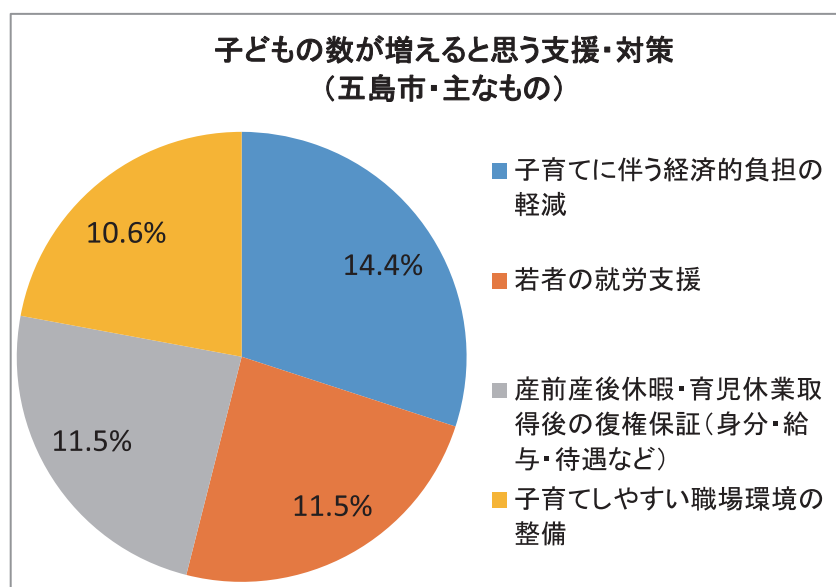
「子育てに伴う経済的な負担の軽減」の具体的支援・対策は、「大学の教育費の負担軽減」が20.6%と最も多く、次いで「妊娠・出産の負担軽減」が20.2%と続いています。

「子どもの数が増えると思う支援・対策」は、「子育てに伴う経済的負担の軽減」が14.4%で最も高くなっています。

【図表 30 子育てに伴う経済的な負担の軽減（五島市・主なもの）】



【図表 31 子どもの数が増えると思う支援・対策（五島市・主なもの）】



【図表 31 希望出生率】

五島市の合計特殊出生率は、2008 年（H20 年）から 2012 年（H24 年）の平均で「1.82」であるのに対し、調査結果による希望出生率は「2.09」と 0.27 ポイント高くなっています。

また、理想の子ども数は「2.41」と更に高く、現状とのギャップが大きい状況にあります。

市町村	合計特殊出生率	希望出生率 (①×②+③×④×⑤) ×⑥	既婚者割合 ①	夫婦の予定 子ども数②	未婚者割合 ③	未婚結婚希 望割合④	理想子ども 数⑤	離別等効果 ⑥
長崎市	1.32	2.00	0.315	2.11	0.671	0.951	2.30	0.938
佐世保市	1.71	2.09	0.401	2.34	0.593	0.963	2.26	
島原市	1.78	2.14	0.426	2.39	0.572	0.974	2.27	
諫早市	1.6	2.11	0.379	2.16	0.617	0.958	2.42	
大村市	1.75	1.98	0.429	2.43	0.562	0.822	2.31	
平戸市	1.96	1.96	0.441	2.57	0.558	0.778	2.20	
松浦市	1.94	2.20	0.47	2.62	0.53	0.897	2.34	
対馬市	2.18	2.17	0.548	2.37	0.45	0.833	2.72	
壱岐市	2.14	2.18	0.558	2.50	0.442	0.828	2.55	
五島市	1.82	2.09	0.476	2.41	0.52	0.862	2.41	
西海市	1.89	2.14	0.453	2.29	0.547	0.947	2.41	
雲仙市	1.65	2.19	0.389	2.51	0.607	0.932	2.41	
南島原市	1.75	2.29	0.404	2.46	0.595	0.929	2.61	
長与町	1.65	2.14	0.417	2.23	0.582	0.971	2.39	
時津町	1.83	2.06	0.427	2.21	0.567	0.927	2.39	
東彼杵町	1.37	2.43	0.314	2.70	0.686	0.957	2.65	
川棚町	1.45	2.00	0.387	2.39	0.613	0.892	2.20	
波佐見町	1.62	2.34	0.403	2.46	0.597	0.917	2.75	
小値賀町	1.72	2.08	0.455	2.33	0.545	0.926	2.30	
佐々町	1.92	2.21	0.489	2.42	0.509	0.933	2.47	
新上五島町	1.76	2.02	0.478	2.39	0.521	0.833	2.34	
県平均	1.59	2.08						

希望出生率（県平均）＝市町別の希望出生率の加重平均

市町別の希望出生率＝[既婚者割合①×夫婦の予定子ども数②+未婚者割合③×未婚結婚希望割合④×理想子ども数⑤]×離別等効果⑥

※1 合計特殊出生率出典 ＝ 平成20～24年人口動態保健所・市区町村別統計、長崎県施策企画課調べ

※2 既婚者割合①、未婚者割合③出典 ＝ 平成22年国勢調査

※3 夫婦の予定子ども数② ＝ 20～49歳既婚女性の「実際に持つことを考えている子ども数」

※4 理想子ども数⑤ ＝ 20～34未満女性の「理想の子ども数」

※5 離別等効果⑥出典 ＝ 社人研の日本の将来人口推計における仮定値

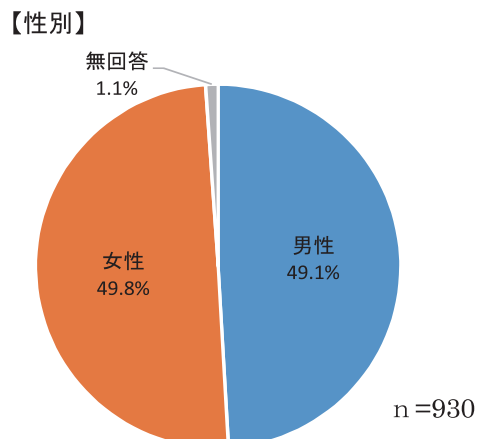
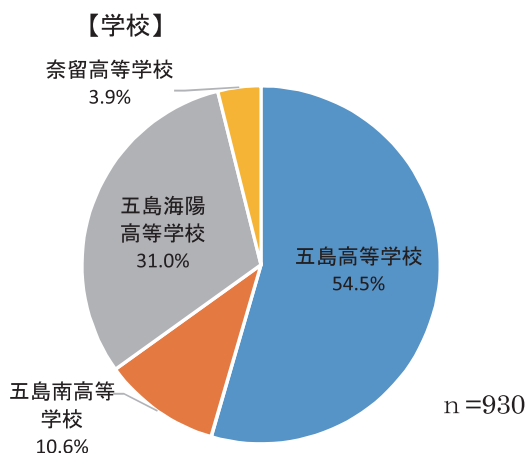
※6 壱岐市データ出典 ＝ 「壱岐市地域少子化対策強化アンケート調査」（調査対象年齢：高校生～29歳）

出典：長崎県人口ビジョン（案）（平成 27 年 9 月 3 日現在）

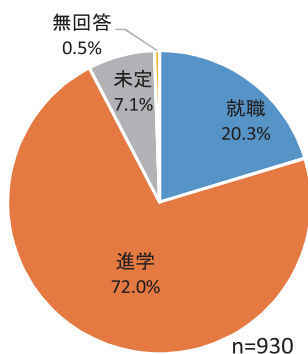
(3) 高校生アンケート調査結果

平成27年6月に実施した市内高校在校生930名へのアンケート調査によると、約40%の生徒が卒業後、「市外に住むと思う」と回答をしています。しかし全体の52.4%は「将来的には五島市へ戻りたいと思う」と回答するなど地元への居住意向は高いと思われます。

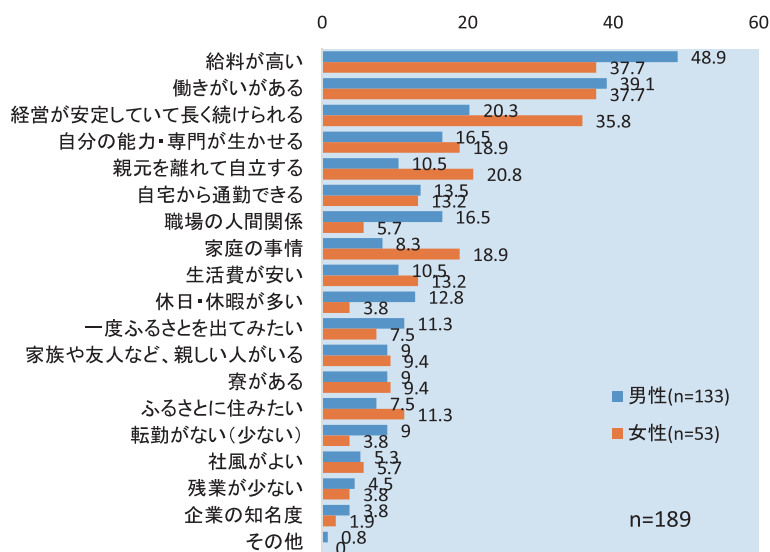
対象：五島市に居住する高校生930名



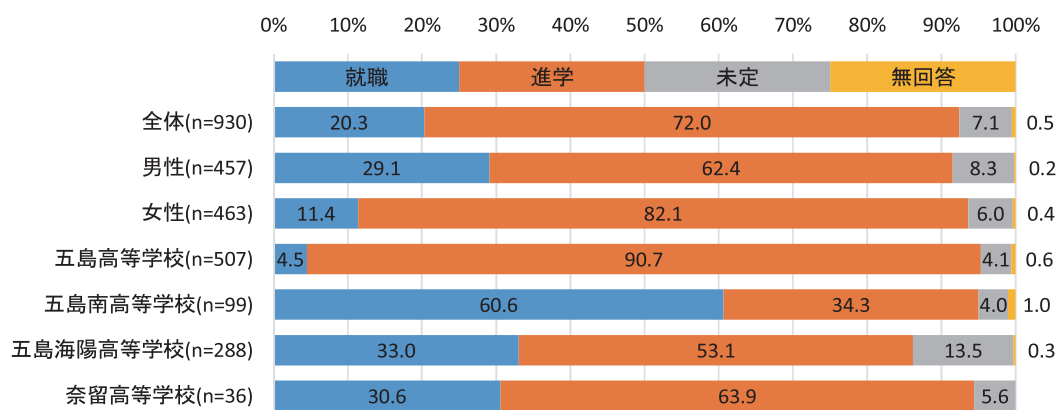
【卒業後の進路】



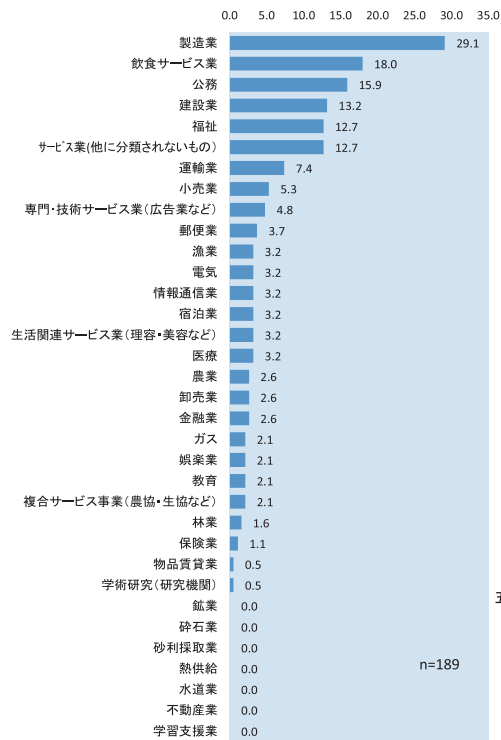
【就職先決定の際に重視すること】



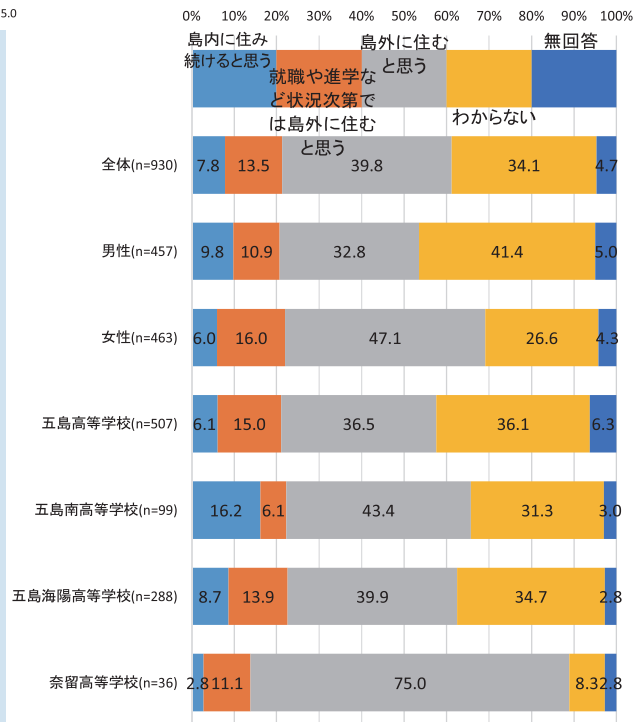
(高校別進路希望)



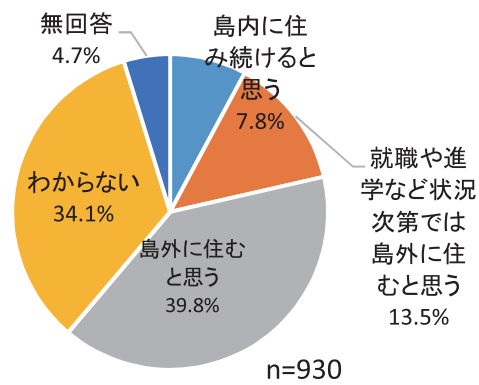
【就職したい業種】（就職希望者）



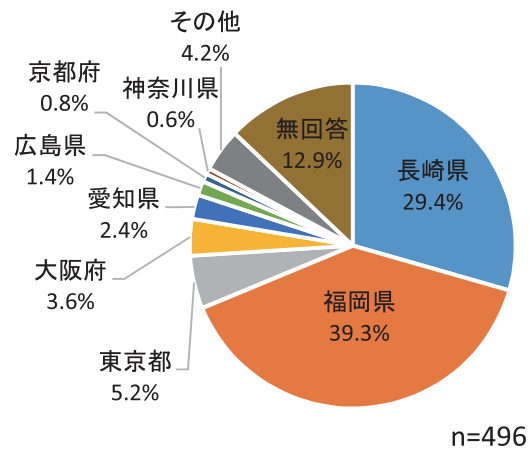
【卒業後の住まいの場所】



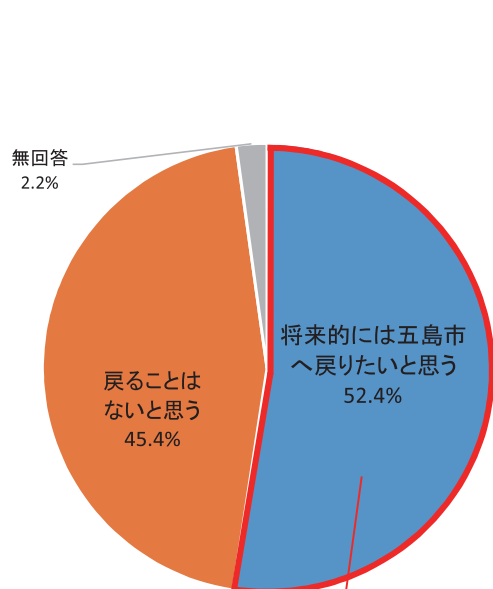
【卒業後の住まいの場所】



【卒業後住みたい場所】

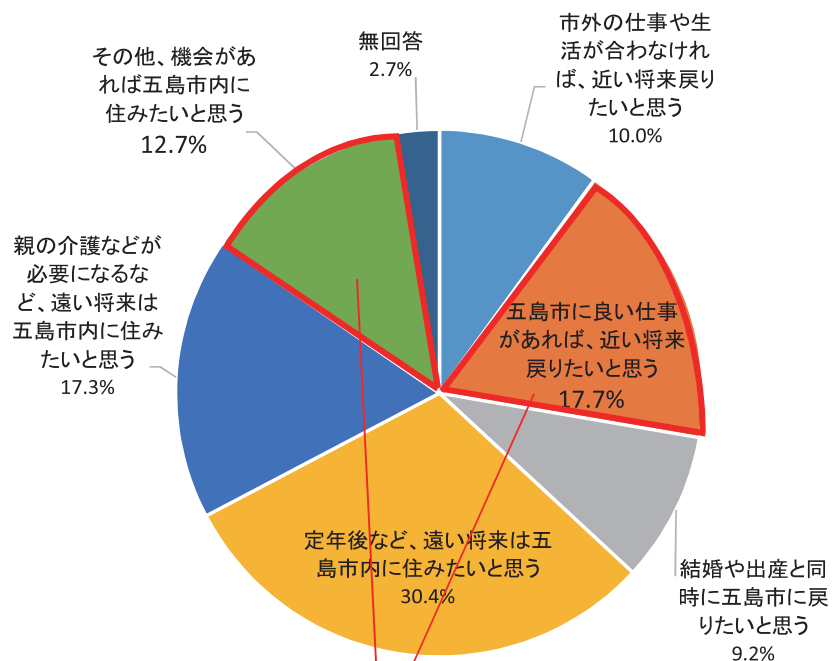


【将来の帰郷ニーズ】



将来的には五島市に戻りたいと思う
52.4%

【帰郷のタイミング】

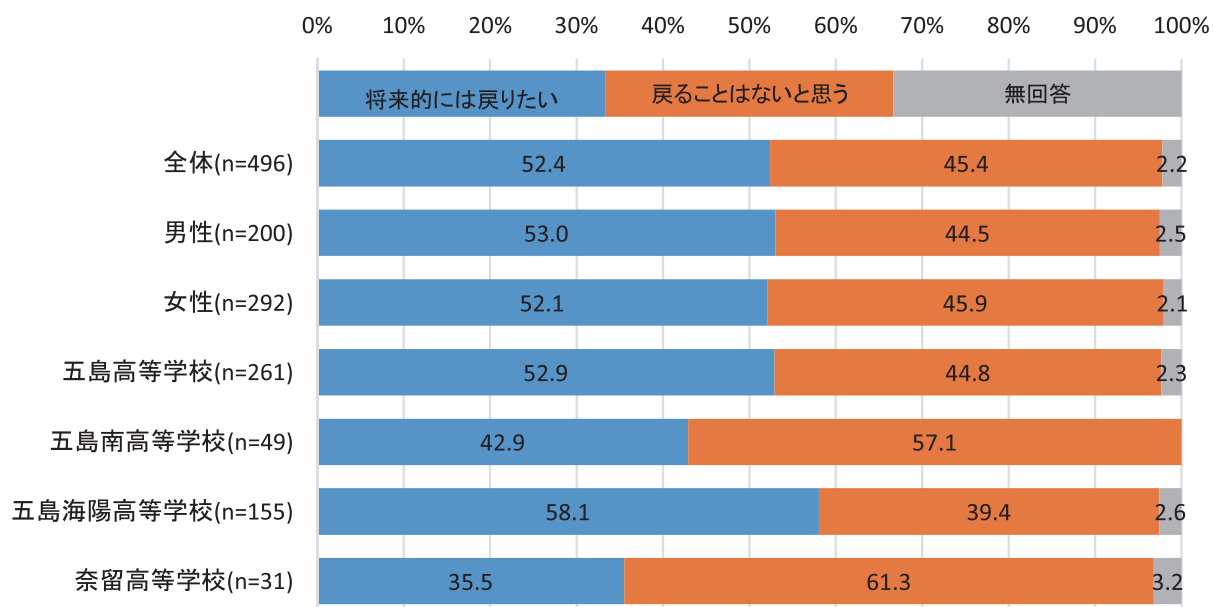


新たなリターンの予備群
30.4%

×

= 15.9%

若年層対策により、流出数の16%程度(年間20~50人程度)の改善可能性がある



【五島市の問題点】

